

# 日本人フランス語学習者の 自由会話における不定代名詞onの分析

2018年11月5日

国際ワークショップ「言語コーパスと学習者言語をめぐって」

東京外国語大学 216教室

東京外国語大学博士後期課程 伊藤玲子

東京外国語大学博士前期課程 清宮貴雅

# 目次

1. 本研究の目的
  2. 方法
    - 2.1. onの用法
    - 2.2. コーパス
    - 2.3. インフォーマント特性
  3. 分析
  4. 結論にかえて
  5. 今後の課題
- 謝辞
- 参考文献

# 1. 本研究の目的

日本語を母語とするフランス語学習者の自由会話において、不定代名詞onをどの用法で用いているのかを、学習者特性(フランス語学習歴、フランス語圏滞在期間)から分析する。

# 2. 方法

## 2.1. onの用法

Fløttum et al. (2007: 24-30) を基にonの用法の分類を構成

表1. 本研究におけるonの用法の分類

不定指示		定指示
総称的用法	特定の用法	
tous les hommes, chacun	quelqu'un	1人称複数

## 2.1. onの用法

### 定指示

(1) On vient souvent ici.

「(私たちは)ここにはよく来ます。」

### 不定指示

#### 総称的用法

(2) Au Québec, on parle français.

「ケベックでは、フランス語が話されます。」

＝「ケベックでは、人々はフランス語を話します。」

#### 特定の用法

(3) On frappe à la porte.

「(誰かが)扉をたたいています。」

(東京外国語大学フランス語モジュール)

## 2.2. コーパス

2015年度「現代フランス語中間音韻論 (IPCF)」の枠組みで調査

- ◆ 録音実施時期 2016年1月
- ◆ インフォーマント 日本人フランス語学習者7名  
同じ大学で教育を受けた中上級フランス語学習者(CEFR B2~C1相当)
- ◆ 2名ペアの自由会話タスク(10~13分間) × 14回
- ◆ 規模 約35,000語(相槌、メタデータを含む)
- ◆ 会話の内容
  - 読んだ本について
  - 映画について
  - 旅行、夏休みについて
  - 子供の頃の思い出について
  - 時事問題について
  - ジムや趣味についてなど

## 2.3. 学習者特性

表2. フランス語圏滞在期間とフランス語学習期間

学習者	フランス語圏滞在期間 (月)	フランス語学習期間 (年)
J1	1	5
J2	1	5
J3	3	4
J4	9	4
J5	12	16
J6	82	8
J7	98	11

2016年2月時点

# 3. 分析

## 発話された語彙数とonの出現数

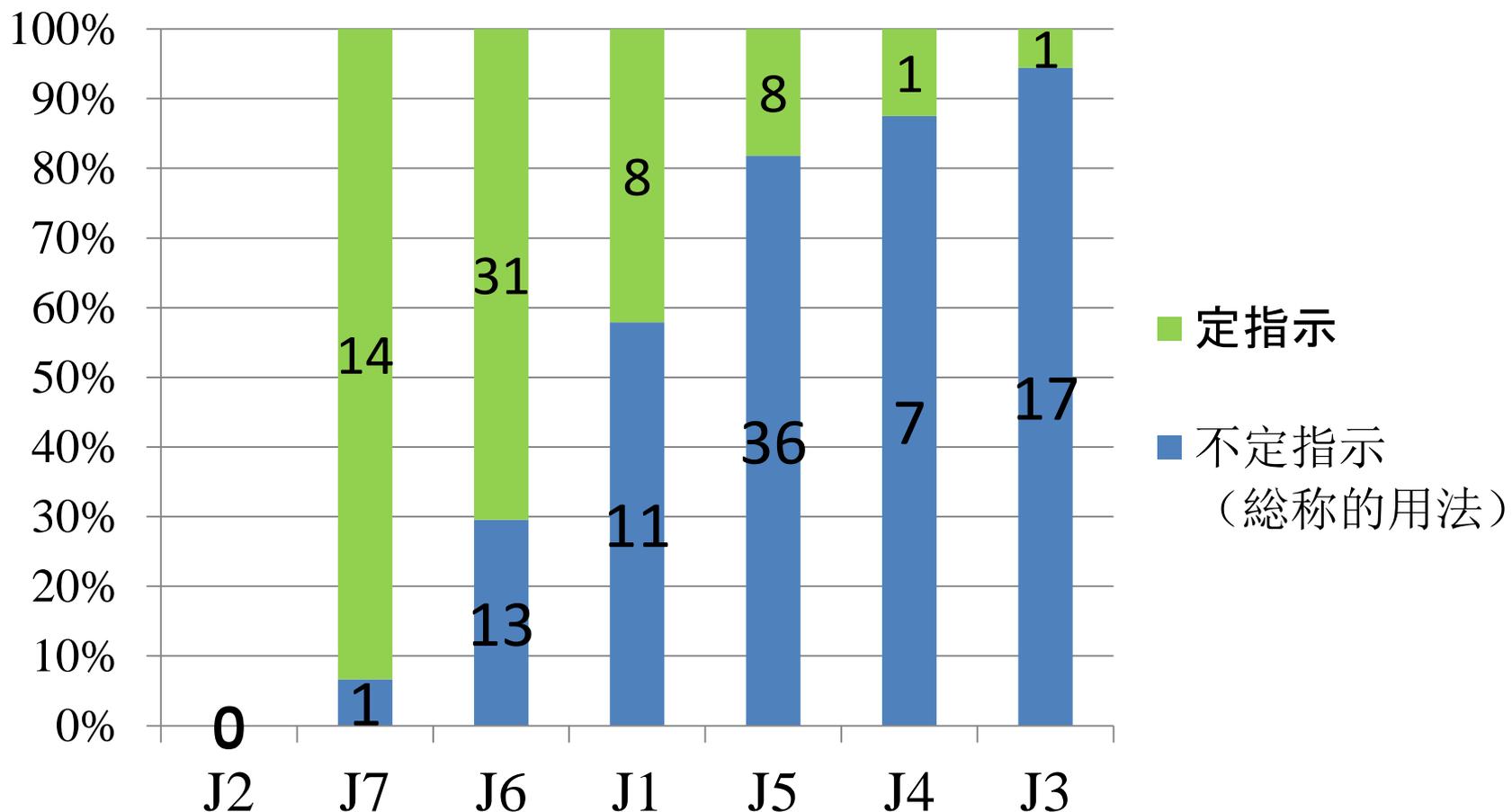
表3. 発話語彙数とonの出現数

学習者	onの出現		発話 語彙数
	N	%	
J2	0	0	1143
J4	8	0.44	1766
J7	15	0.64	2347
J1	19	0.66	2827
J3	18	0.90	1914
J6	44	1.15	3753
J5	44	1.17	3705

(%は小数点第三以下四捨五入)

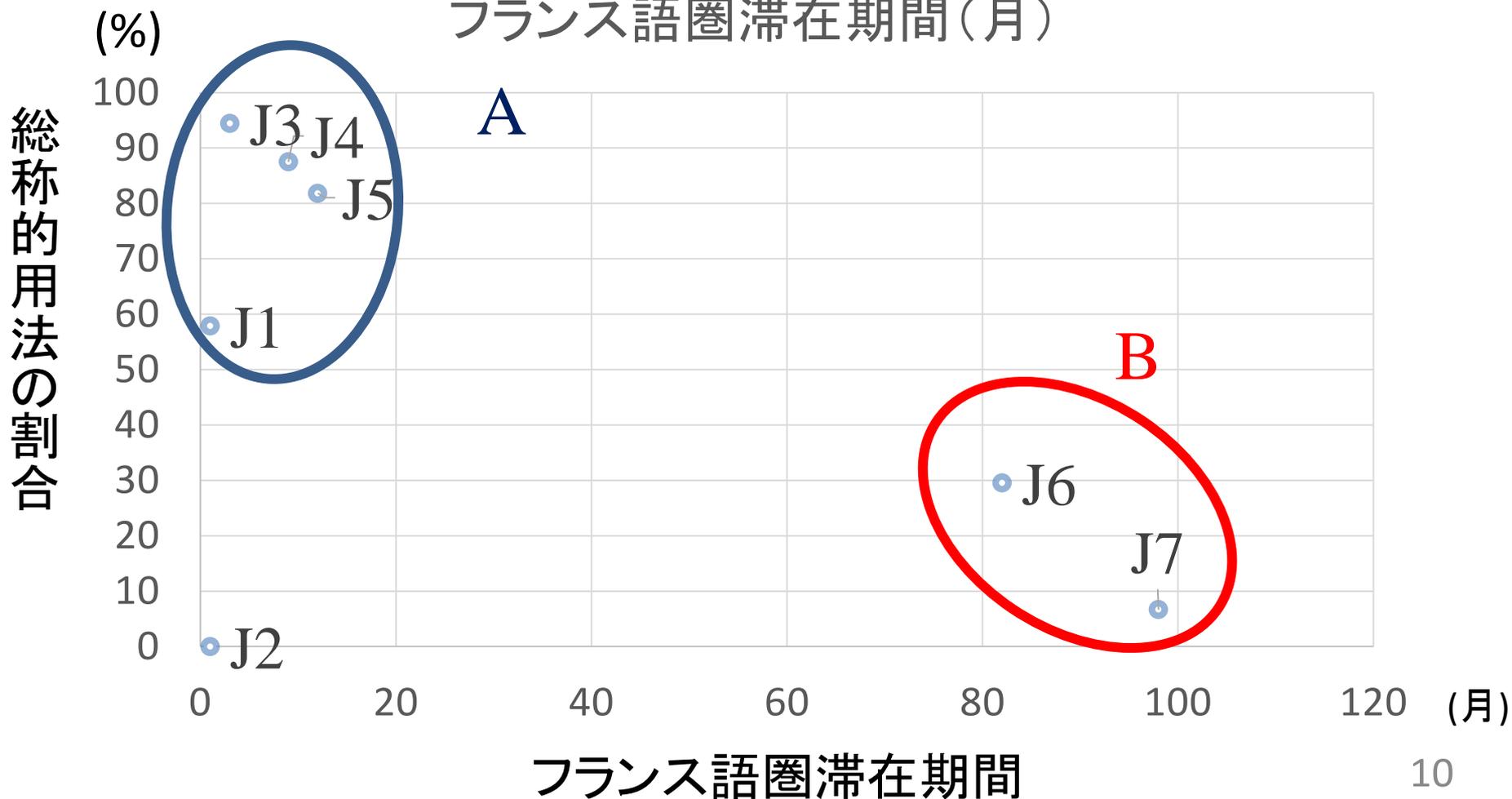
# 発話されたonの用法

グラフ1. 発話されたonの用法



# onの用法とフランス語圏滞在期間

グラフ2. 不定指示(総称的用法)の割合と  
フランス語圏滞在期間(月)



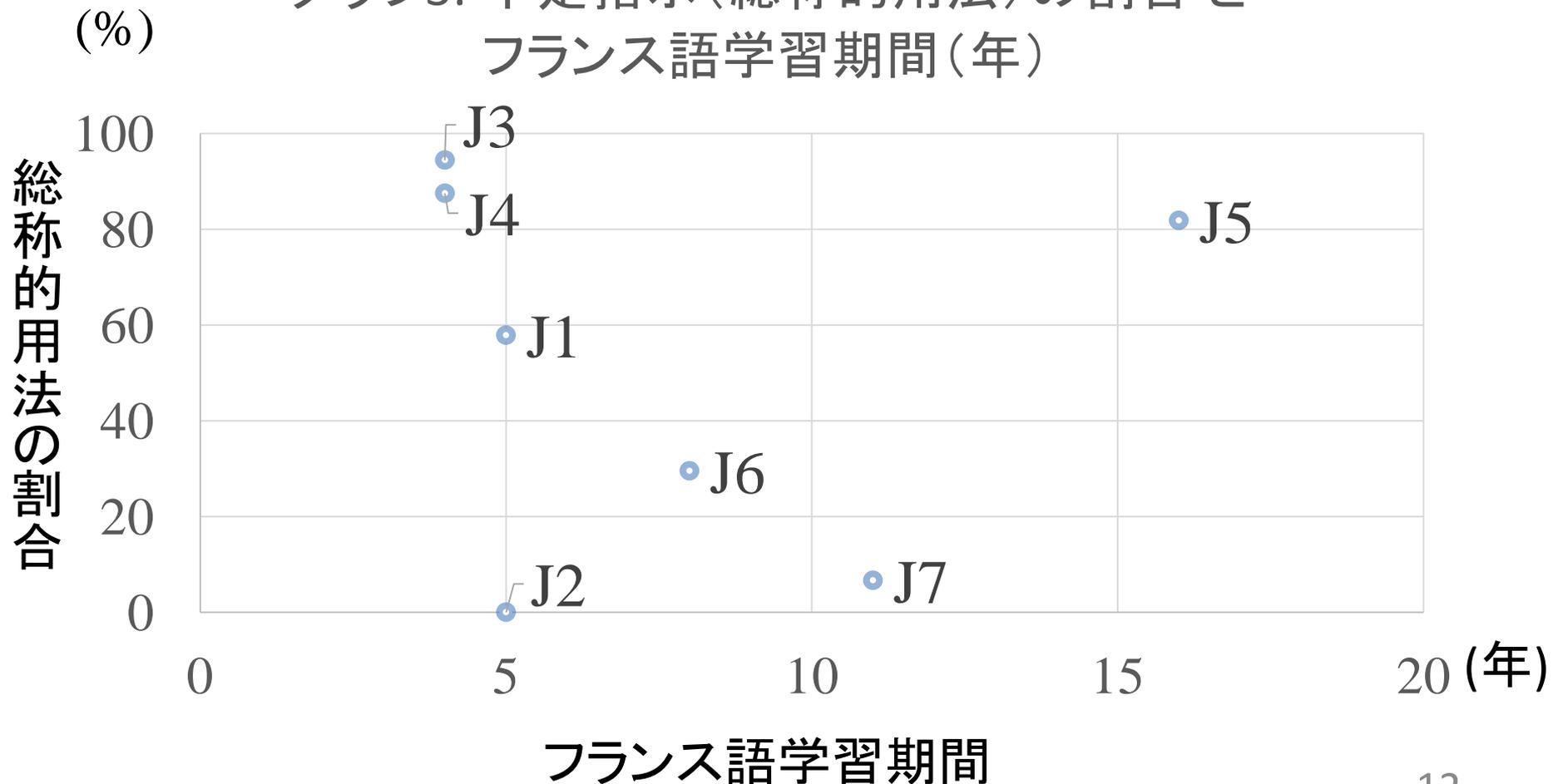
# onの用法とフランス語圏滞在期間

- ◆ グループA : J1, J3, J4, J5
  - 総称的用法の使用割合が高く、定指示の使用頻度が低い。
  - フランス語圏滞在期間 1年以内
  - J1 不定指示(58%)、定指示(42%)。
- ◆ グループB : J6, J7
  - 総称的用法の使用割合が低く、定指示の使用頻度が高い。
  - 滞在期間 6年以上～9年未満
- ◆ グループに属していないインフォーマント
  - J2 1度もonを発話しなかった

⇒使用するonの用法 と フランス語圏滞在期間  
関係性があるようだった

# onの用法とフランス語学習期間

グラフ3. 不定指示(総称的用法)の割合と  
フランス語学習期間(年)



# 不定用法(総称的用法)

チャンク: comment on dit ①

何を言おうか考えているときに使用

## ◆ comment on dit

J3 6回

J4 2回

J6 1回

## ◆ \*comment dit

J3 5回

同じ意味で comment dire / comment dirais-je も使用

J5 2回 / 3回

J4 1回 /

# 不定用法(総称的用法)

## チャンク: comment on dit ②

### ◆ comment on disait

名称を思い出そうとしているときに使用

J6 1回

### ◆ comment on dit ~ en français

フランス語でどういうのか考えているときに使用

J4 1回

J5 1回

J6 1回

### ◆ comment on dit ~ en France

フランスでは何というのか考えているときに使用

J6 1回

# 不定用法(総称的用法)

チャンク: on doit

「～しなければならない」

表4. il faut que/+inf と on doitの使用回数(回)

学習者	il faut que/ +inf	on doit
J2	0	0
J3	1	4
J7	0	2
J1	0	5
J4	3	0
J5	6	0
J6	9	0

どちらか一方を発話: J1, J4, J5, J6, J7

# 不定用法（総称的用法）

## チャンク: on doit

(4) J4 160 :

... il faut # payer au moins deux mille euh deux mille yens ...

「... 少なくとも2,000 うーむ 2,000円支払わなければなりません ...」

J3 179~J4 166 (12発言省略)

(5) J3 185 :

... mais il faut payer # au moins # (省略) mille # mille cinq cent yens ...

「... でも少なくとも (省略) 1,000... 1,500円支払わなければなりません...」

## 4. 結論にかえて

- ◆ 不定指示の総称的用法、定指示の2つの用法を使用
- ◆ フランス語圏滞在期間
  - 6年以上～9年未満のインフォーマント : J6, J7
    - 定指示の使用割合が高い(70%以上)。
  - 1年以内のインフォーマント :
    - J3, J4, J5は不定指示(総称的用法)の使用割合が高い(82%以上)。
    - J1は不定指示(総称的用法)(58%)と定指示(42%)
    - J2はonを発話しなかった。
- ◆ 不定指示(総称的用法)のチャンク
  - comment on dit
  - on doit

## 5. 今後の課題

- 定指示の用法で使われる不定代名詞onについて、誰を指示しているか詳しい分析を行う。
- 不定代名詞onと共起する動詞を調査し、用法ごとに傾向があるのかを分析する。
- 不定代名詞onの指示対象・用法に、話題や文脈との関連性があるのかを分析する。

# 謝辞

本研究は、科研費16H03442 基盤研究(B)「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」研究代表者 川口裕司、科研費 15H03227 基盤研究(B)「A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French」研究代表者 Detey Sylvainの助成を受けたものである。



# 参考文献

- BOUTET, Josiane. (1986), La référence à la personne en français parlé : le cas de "on". *Langage et société*, n° 38, pp. 19-49, Paris : Éditions de la Maison des sciences de l'homme.
- BRADLEY, Evan D. et al. (2015), Elicitation of french on vs. nous in formal and informal contexts. *Research in Language*, Łódź : The Journal of University of Lodz
- FLØTTUM, Kjersti et al. (2007), *On : pronom à facettes*, Bruxelles : De Boeck.
- DEWAELE, Jean-Marc.(2002), Using sociostylistic variants in advanced French interlanguage , The case of nous/on\*, *EUROSLA Yearbook 2 (2002)*, 205–226, Amsterdam : John Benjamins Publishing Company.
- SYLVAIN, Detey. et KAWAGUCHI, Yuji. (2008), *Interphonologie du Français Contemporain (IPFC), Récolte automatisée des données et apprenants japonais*, Colloque Phonologie du Français Contemporain : variation, interfaces, cognition. MSH Paris

URL

東京外国語大学言語モジュール「フランス語文法」,

<<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr/gmod/courses/c01/lesson07/step1/explanation/031.html>>

2018年11月4日アクセス.